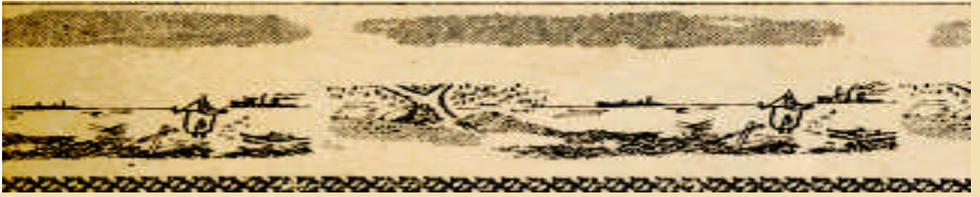


いななき



青山学院馬術部



目次

巻頭言	………	土田三千雄	一
巻頭言	………	青木真次	二
役員の抱負	………	一言正広	三
馬 齡 半 蔵	………	………	八
最近の馬術と私の意見	………	岩崎修	一二
合宿の思い	………	小野崎威	一九
福島遠征記	………	岸裕子	一七
平木コーチの横顔	………	………	一九
二部馬術部の現状	………	………	二一
新馬二頭上京の記	………	高倉彰	二二
四大学新人戦	………	………	二五
よくやつてくれました対慶応戦記	………	高井由紀子	二六
我れらは馬である	………	………	二八
続、青波とともに	………	高倉彰	三二
部生活に関する十二章	………	………	三四
或るひと時	………	………	三六
綱島案内	………	………	三八
編集後記	………	………	四

巻頭言

部長

土田三千雄

馬房が出来て、 magari なりにも移転した矢さき、今度は周辺の住民代表から抗議を受けて困っております。

住民の側にも言い分は十分ありますし、その言い分は極めておだやかで、無茶なものでないだけに学院当局も全後の方策を一生懸命考えているわけです。学院としてもいわば御隣家の皆様とこれから仲長く住んで行かなくてはならぬ土地ですから、お隣りと善意を保つ努力が必要であります。

とりあえず馬糞尿の処理、悪臭の除去等に万全の策をとって御近所に行けるだけ御迷惑のかゝらないやりかたを致したい。そしてその為にはどうしたらいいかと、営繕課も稔務課も頭をひねっているわけです。どうか、部員諸君もこの点に格別の御協力をお願いします。

大学の馬術部となつてから、殆んど全期間私は部長

という名前になっております。生来どうしたわけか馬が好きでしたから、乗馬は下手くそでだめですが、部のお世話の片棒をかつぐことくらいはというわけで今日に及びました。始まつて暫くの間は、馬も二頭、それさえ養いかねる有様で、部の前途は樂觀を許さなかつた。

しかし、有難いことに、その後戦後の経済復活とともに次第に道が拓けて来た。

殊に有難かつたのは青木真次さんを頂点とする先輩の御援助だった。事実青木さんの陰に陽にの御援助がなければ、今日馬術部ほどなつていたか分らない。先輩というものゝ有難さを、まことに骨身に泌みて味つたのもその頃。そして年々増加する先輩の協力でどうにか先行きの見通しが明るくなつてきた。

しかし、いつも、あちゆる先輩を代表して青木さんの御支援は肝に銘じていなくてはなりません。

馬術そのものゝ大学間のランキングとか成績というものを期待する考え方には私は疑問を持っています。

馬術の成績そのものゝために馬術部を限られた選手だけの専用にするには絶対にいけません。数人ないし一人二人の優れた選手が出なくても私はいいと思います。

運動部本来の姿と、選手制度との調節は部の指導的立場に立つ学生が最も意を注いで誤らぬようにやっていただきたい。馬術部は部員全体のたんれんの場であることを

巻 頭 言

新年おめでとう。

一年で年のかわることの意義ほ沢山あるが、そのうちで私達にとつて一番意味深いことほ、年毎の新陳代謝であるう。云いかえれば進歩であり、前進である。去年出来なかつたことを今年やる。今年出来ないことほ次の者が……。この積み重ねが歴史であり、伝統である。

さて、この前進は誰れがやる？それは諸君一人一人であり、われわれ一人一人である。だが人間一人の力は知

銘記願いたい。そして部のあり方について部員一同は常に定見を以ていただきたいし意見あらば、フランクに検討する態度を持っていたいただきたい。

来る年も 馬術部に幸ありますようほ。

一九六〇・一二・一九

青 木 真 次

れたもの、それに物事にほ支度が不可欠だとなれば、組織（団結）と準備（計画）のレールを立派に敷き、役員諸君が機関車である、馬術部という一本の列車となつて前進又前進するのである。

二年生はこの九月にはもう機関車だ。一年生はその時は機関車の次において、うしろには次の新入生を引っ破っているのである。途中には信号機があつて道案内をした。駅があつて、水や油の補給をしたりする。緑鞆会は

こんな役目を今年も来年も、もっともっと積極的に果したい。現役部と緑鞍会のこのように組合わされた前進の中に伝統の花の咲くことを皆んなで期待しようではないか。

私は、お正月に綱島の馬場を訪れた時、あの泥土の中で、先輩や、部員の人達が汗ビツツヨリになって、土工作業や寝藁作業に黙々と献身されているのをみて、よし今年は何もやるぞ、と心に期したのである。

今年の前進はもう始っている。

役員 の 抱 負

協会幹事

一 言 正 広

小生は我々青山学院の馬術部の協会幹事に選ばれました。まだ関東学生馬術協会の幹事会には二、三回出席したのみで、幹事としては幼稚園の子供ぐらいのものですが、これから約一年間は我々馬術部の意見を大いに幹事

会に於て述べ、又幹事会に於ては他校の馬術部の方々と接触し色々意見の交換も出来る故、馬術の生活や馬匹の事その他について話し合い我々の馬術部のために有利なる様活動したいと思ひます。

借越ですが最後に小生が最近の我々の馬術部について感じた事を述べさせていたゞきます。三年生を主体として新役員が生れてから二カ月程になります。各人が性質も大いに異なるにもかゝらず、ある一定の型にはまつて行くような気がする、団体の力とゆうものは一定の型の人間の集まりよりも異なつた性質、人柄の人間が一つの目的のために団結した時非常に大きな力が發揮出来るのではないか、なぜなら一定の型の人間の集まりは各

人の加数倍の力しかだせないが、異なつた型の人間の團結した集まりに於ては各人の乗数倍の力がだせるのではないだろうか、過去を振替えてみても異色の分子が團結した場合大きな力を出していると思う故、各人が十分に独自の持味を發揮されん事を願う。

岩崎 修

会計としての抱負

商科三年 高倉 彰

二年連続会計をやるわけであるが、とにかく、一年間の経験を基に、しっかりと計画を立て、何とか健全財政に持つて行きたい。一年後に借金がなくなっていたらそれだけでもいいと思う。

綱島へ移つたので新しい問題が次々と起つてくるであらうが、とにかく、一生懸命やり、伝統ある部の会計のページを飾りたいと思う。

今日迄約一年間副将の任にあつたわけだが、自分としては十分に責任をはたせたとはいえない。大変残念に思う。しかし、新しく副将に選ばれた金子君がきつと、持前への誠実さをもつてりつぱにやってくれると思うので心配はしていない。

これまで、私によせられた部員の協力に対し、心からの敬意を表したい。有難う御座居ました。

今後は卒業迄は部員として新役員のもとに部の為に微力をつくすつもりである。又卒業後も品会の一員として、出来るかぎり積極的に協力するつもりである。

馬 匹

飯田 和之

現在五頭の馬匹を有しておりますが、飼育管理の面からみれば妥当な数で、又その内新馬が三頭もおりますの

で、現有馬匹の満足な管理とその向上ということ在今年の目的にしております。勿論可能なら一、二頭の入れ変えも考えておりますが、まず自分達の持つているものを最上に活用してからのことです。その為に年二回毎度の総合検診、夏期に多量の乾草を作ること、等を新しく計画しております。又部員間の馬事知識の普及ということも大切なことと思われず。

幸い綱島に立派な馬房が新設され、馬糧庫、糞置場等の付属設備も近く着工される予定なので、その点非常に恵まれているといえます。しかし地理的なハンディキャップがあるのでこの点部員相互の協力で補わねばならない、その点特に下級生等認識して欲しい。

部員の心がまえ

主務 岡 良介

人間というものはいわゆる個人差があるからなかなか同調しないのが常である。

青春時代の大学生生活四年或いは二年間入部したての頃のなまはんかの態度は今となって恐らく不屈の精神に変

っていることと思う。

自己の性質、主張が通用しないとき、「この野郎」と思うときもあつたろう。

この部、一つの社会である馬術部にも当然起りうる問題である。しかしまだ先がある。先を見越さなければ損だ。学生生活なんか数年で、人生はその又先に数十年もある。例え自分の主張が受けいれられぬとしてもその際我慢、忍耐力を養うのはこれが最後だと思いたまえ。上級生を見て自分達を常に直していきたまえ。自分を殺して、とまでは言わぬが、積極的に進んで自分を苦境におとし入れてみてはどうだろうか、忍耐力の養成である。自分のやりたい事をやる時はすぐに来る。その時迄それはそつととっておきたいものだ。

馬を扱うことは赤ん坊を育てるのに似ている。母親はそれこそつきつきりで面倒を見ている。

部員が君一人で馬が青光一頭だと思えたまえ、大変だろう？ でも馬術部ほ一つの社会組織で、個人でほないから一人一人の仕事は大したことはないと思ひ勝ちになり、その際、部は良くなるか否かの瀬戸際になる。

近來まれに見る豊富な馬匹と最高のコートチと新設馬場

とに恵まれた一九六一年は伝統ある馬術部将来の歴史への試金石であり部員各自の果すべき使命は非常に重大である。

男女和合して、より統一した部生活を永遠に……。

さて今年度は馬尊公苑迄馬輸送三時間半、馬匹車使用代往復壹万円もかかると綱島馬場故、余程部の馬匹は勿論、他校のそれも改良、調教されねば個々の定期戦などはそうおいそれとは出来かねる。

関東大会、東都大会等の大試合はともかく、白馬競技主体になる風潮は日本一円にある。

幸い関東学生自馬も協会にて意見が出て来た模様なのでこれは多分に可能性はある。

自馬を良くすることが他校より先んずることになる。

この考えはこれから益々一世を風びする様になるう。

ともあれ、男女相半ばしてなごやかな点は申し分ないが節度を保ち、良いふん意気を持っていくつもりである。

全てゆう通性のある、強い意志を持った良い人間性を身につけていきたい。

我々馬術部々員に望む

主将 堤 義 則

現在、自分が上級生として部というものを見ると、今迄の自分の考え方と非常な違いを見、部を運営していく事が如何に困難であるかを知る。

自分は人に束縛される事が嫌いで（誰でも同様であるが）一、二年の時は自分勝手な事をしてきたようである。自分が上級生となつて初めて、これが上級生に対しても又、部に対しても失礼な態度であつたかを知り、恥かしく御詫びする次第である。

体育会に於ける部は“ 心身鍛練の場である と昔

から云われているが、現在に於いては単に興味本位の気休めの場であつたり、職業的な風のあるものとなつているのをたまたま見つける事は非常に残念である。とはいへ、鍛練だからといって、上から強制されそれが本人の重荷となる様な事は望まない — 軍隊的強制によるスポーツに、何の面白味があるというのか — 強制されず自分で考える運動部は楽しみであり、喜びである。その

中に苦しみ、悲しみがある事はあたりまえであろう。あくまでも自分の範囲内に於いて行動するのであり、上からの強制が負担と思われる様では意味をなさない。運動部が心身鍛練の場であると言いたい事は同じである。即ち各自が自分に対して強くつらく当る事である。そうすることに依つて、自分で自分を鍛え上げていき、他からの圧迫に対しても耐え得ることが可能な自分を造ることなのである。

自分がこの馬術部々員に望むのは、この様な人間になつてくれる事である。積極的に行動し、あくまでも自分の意志で行っているのだと考えることが出来る、そんな部員になつて欲しい。

副将

金子 障 男

フロンティア・スピリットそれは辺境地開拓者精神といわれている。新天地を求めて、西へ西へと開拓をつづけ、遂に大平洋岸に到つた。その旺盛な英国人の気質それは、一步一步着実に前進する強い・意志と勇氣、力

忍耐、博愛心の結晶であり、そして汚れなき心臓と肺の賜物である。

英国人はスポーツを特に愛するそうである。スポーツが自然にフロンティア・スピリットを生んだのであろう。しからばそういう恩恵に浴している吾々は部の本質を究め、部活動の尊さ、威厳さを知り、反省しなければならぬ。吾々は母校を代表する伝統ある馬術部にいるのである。新天地が英国人の目的であつたなら部員の目的は母校の名譽の為に強力な馬術部を築くにある。

幸、有能な堤君が主将となり部の発展性は十分ある。だが部の発展は人と人との協力、理解に立ち和する事によつて得られるものだ。堤主将は人を大事にする人間だ、吾々はこの新主将に全能力を捧げようではないか、捧げなければならぬのだ。

綱島に移つてから既に数カ月、前途には数多くの試練が待っている。我らほフロンティア・スピリットを持つて、これらに臆することなく、部員一同団結して、自己の行動に誇りを持つて精進しよう。

後述となりましたが、先輩皆様の大きな御助力と御指導をお願いする次第です。

抱 負

菊 地 由 美 子

新しく女子の責任者として先輩の輝かしい業績の後に
出来るだけ頑張ろうと思います。

女子の馬術は難かしい問題ですが得な点 良い点もあ



馬 齡 半 歳

五月二十六日～六月一日

関西遠征（参加者）平中、岩崎、五十嵐、原山口、堤

岡、金子、一言、柴田（昭）、神藤

阿佐美

二六日・対甲南大学戦 敗

二七日・対神戸大学戦 敗

二八日・京大馬術部見学

二九日・関西学院大学戦 敗

三一日・愛知大学戦 敗

ります。よく女子の限界はどの程度までかと聞かれます。
技術のことと体力のことも言っているのでしょうか、先
輩を拝見して、どちらも決して男子に劣ることはない
と思います。難かしいのは家庭の理解です。とかく馬術は
荒つばい、あぶないスポーツと思われがちですが、女ら
しさを保ちながら、技術の面に理解・れるように努力し
たいと思います。少ない上級生ですが、平木コーチの下
に頑張つて行こうと思います。

三一日・名古屋大学戦 勝

六月一日・名古屋市大戦 敗

愛知県学生新人戦 勝

六月四日

東京大会

岩崎 修（膏麗号） 中障静失権

高尾友子（ ” ） 婦人障得失権

原 巧（月雪号） 中障碑一落

井田恵子（ ” ） 婦人障得失権

山口和正 (青波号) 中障碍失権

菊池由美子 (") 婦人障碍失権

岡 良介 (青葉号) 中障碍失権

高井由紀子 (") 婦人障碍失権

六月九日

関東学生馬術オープン戦

対農業大学戦 敗

出場者 五十嵐、高倉、岩崎、岡、平中、堤

便勝は立教大学

昭和三十五年度後期活動報告

六月一三日・一四日

馬市見学(平木コト子、堤、岡) 仙台、石巻

六月一四日

関東代表選手第二次予選(於馬事公苑)

平中、岩崎、高倉 三者落選

六月一六日

青波、青影 売渡し

六月一八日

新馬購入二頭(仙台、石巻)

青剣、青渚と命名、馬輸送高倉、小宮

六月一九日

山中湖へ遠乗り、新入生中心に十一人

六月二六日

関東女子代表選手選抜会(於馬事公苑)

三位 木田美恵子 六位 菊池由美子

新人部班の部

一位 原田絢子 二位 水島道子

三位 西谷京子

七月一日

関東九大学争覇戦(於馬事公苑)

一 回戦 対農工大に勝

二 " 対中央に敗

三 " 対学習院に敗

七月八日

対甲南大学オープン戦に勝(於馬車公苑)

七月一日

新馬能力検定試合 青麗、月雪出場

七月一二日、八日

男子夏期合宿(於伊東大室高原乗馬クラブ)

参加者 平中、岩崎、堤、金子、岡、高倉、一言、

飯田、神藤、鈴木、山田、重富、阿佐美、

寺崎、中村、斉藤、佐藤、小野崎、柴田克
阿南

七月二〇日～二六日

女子合宿（於伊東大室高原乗馬クラブ）

参加者

七月初旬～八月二四日

馬場取こわしのため馬事公苑借用し練習

八月二四日

網島へ馬場移転、馬輸送

九月一日

国体予選（於馬事公苑）

岩崎 修（青麗骨） 中障碍一二位 複合失権

六段失権

岡 良介（月雪号） 中障碍失権 六段五位

飯田和之（"） 複合失権

井田恵子（"） 中障碍失権

菊池由美子（青麗号） 中障碍失権

高尾友子（"） 六段大権

原田絢子（月雪号） 六段失権・

九月一八日

全日本予選兼東京都選手権大会（於馬事公苑）

岡 良介（月雪号） 中障碍一〇〇

複合一〇六・五（九位）

井田恵子（青麗号） 複合失権

神藤重光（"） 中障碍失権

一〇月一六日

四大学新人戦（於馬事公苑）

出場者（飯田、神藤、山田、小宮、鈴木、重富、伊藤）

藤

青学 四六〇・五 農大 一三一八 差 一四二・五

" 六五五 農工大 一六二二・五 三一・五

" 一六六九 日大 一六六七 二

一〇月一六日

女子福島遠征（於福島競馬場）

参加者 平木、金子、井田、木田、菊池、中島、高

井、高尾、原田、水島、伊沢、岸、渡辺、

児玉、高橋八、高橋貴。

個人戦 一位 菊池由美子 二位 水島道子

三位 藤間愛子

一〇月二九日

新役員決定、引継ぎ

部長 土田三千雄

監督 米谷浩志

コーチ 平木茂子

主将 堤 義則(商三) 副将 金子擘男(商三)

主務 岡 良介(商三) 副務 山田芳通(法二)

会計 高倉 彰(商三) 副会計高井由起子(英二)

幹事 一言正広(経三) 補佐 鈴木宏志(商二)

馬匹 飯田和之(経三) " 小宮紀六(法二)

緑鞍会 神藤重光(商三) " 高尾友子(英二)

女子責任者 菊池由実子(英三)

女子主務 中島淑子(教三)

一月一六日

女子対成城大学(於清風会) 敗北

出場者 井田、菊池、高尾

一月一七日

青学短大×青学二部×法政二部定期戦(於横浜乗ク)

青学二部優勝

一月二七日・二八日・三〇日

関東学生馬術争覇戦(於馬事公苑)

対宇都宮に勝

出場者 平中、岩崎、堤、金子、岡、高倉

対 東大は敗

対麻布大に敗

二月一日

アバロン大会(於アバロン馬乗クラブ)

岩崎 修(青麗号) 複合失権

平中三彦(青光号) 複合馬場八位 障碍一三五

中障碍一〇〇

原田絢子(") 婦人障碍一(六位)

飯田和之(月雪号) 中障碍一二〇

井田恵子(") 婦人障碍一四(四位)

堤 義則(青剣号) 中障碍失権

高倉 彰(青渚号) 中障碍失権

二月一四日

第四回対慶応女子定期戦(於日吉)

出場者 井田、菊池、原田、水島、高尾

差 三〇二点にて勝

二月一九日

納会及び馬場移転祝賀パーティー(於銀座白馬車)

二月二〇日

部内対抗戦

優勝男子一ム並びに殊勲賞(井田、神藤、小宮、

原田、小野崎、兎玉、岡田、高橋(八)

敢闘賞 斉藤良也 (C)

技能賞 山田芳通 (D)

最近の馬術と私の意見

岩崎 修



私が馬術に足を踏み入れて、およそ七年となるが、その間日本の馬術が年々着実に伸て来たことは私だけが感じる事ではあるまい。それらは最近の全日本的な馬術大会はもとより、我が馬術部に於いても明かな事実となっている。

戦前に於ける日本馬術界は、その現実的な必要性から盛んなものがあり、その当時に比べると現在馬術界全体の人気というものは比較にならないものがあろうが、こゝと馬術というものの本質については、戦前のそれと、大差ない所迄行っていると考ええるのほ、甘いであろうか、まあ、こんな比較はともかくとして、最近の馬術界に現われた大きな傾向として、いい馬を作る、すなわち、馬

匹自体の内容向上というものがある。

従来日本の馬術は騎手を作ることに、重点を於いて来たと思われる。私はこの事ほ軽んずる事は出来ないものであると思うが、しかし、反面単に馬乗りとしての自己満足に落入りやすいもので、馬術のより高い成長に対してマンネリズムを与えるものであると言えるのではないかと思う。戦後のオリンピックに於いても日本が伸び悩んでいるという事実はこの辺にあるのではないが、日本の騎手は世界的水準にあるが、馬匹の点で問題にならない開きがあるという事は、しばしば最近耳にするが、日本の馬術界としては考えるべきことであると思う。この点で今迄のマンネリズムを打ちやぶるこの馬匹内容の向

上という傾向が現われきたことは歓迎すべきことであり、当然の傾向であるともいえる。

なまいきな事を云う様だが、馬術において主体となるべきものは馬であつて、騎手は馬の最上の動きを助長するものであるといえる。あくまでも演ずるものは馬であるという事からすれば、その馬自体が優秀である事が最も必要なことではないか、能力のある馬のその能力いっぱい活用することが出来れば日本の馬術もさらに大きく躍進することであろう。ここで日本馬術界の中堅であるべき学生馬術においても、この点に重点を於いて、各大学がさらに努力をしたいものである。しかし優秀なる馬を見附けることは色々困難な点が多いと思われる。今一挙に最上のものとしなくとも、段階的にこれを解消していく努力をすれば決してむりな事ではないと信じる。ここで注意を用するのは、あまりに馬のことはかりに頭をおいて、自らの技術の向上をおろそかにしてはならぬことである。技術を持たぬものがいかに努力をしても、いい馬を作ることは不可能な事である。

我が馬術部にも優秀なる新馬が入つて来たことでもあり、その新馬の調教にあつては全員この点に充分に注意をして、いい馬を育てて行こうではないか。

さて、次に私の馬術に対する意見を少しのべて皆さんの批判をおおぎたい、わずかな馬歴で馬を語る資格はないと思つが、まあ聞いてほしい。

私は馬に乗つて、馬を真直く歩かせる事が簡単な様で一番むづかしい事であると思つ。又自分で馬をいつも真直く歩かせることは、自信を持ってない。ここでいう真直ぐというのは、一直線を行進することだけを意味するのではなくて、偶角通過や回転に於ける人馬の平衡を保つことによる真直という事をも意味する。この真直ぐに保つ為には少くとも平衡と推進力が完全でなくてはならぬと思つ。すなわち我々が最も落入りやすい過失に脚を過度に操作することである。(よく云われる脚の扶助が強いということ)この事はまず馬の口の方ばかりに馬を保持しようとして平衡をくずすものであつて、これでは馬を真直く保つことは出来ない。例えば巻乗りの場合に回転させる方の脚(内方脚)が強すぎて、他の一方(外方)が遊んでいては馬の首を過密にまげる事になり、馬は自由になつた方に逃げようとして正しく歩かずこうゆう不安定な状態では常に正しい巻乗りをすることは出来ず、いびつになり又脚を強くそうさするため巻乗に入ると時に急に一人るので円を描く事が出来ない。

次に馬の推進が口に出て来ない様では真直ぐ歩かせる事はとうてい出来ない。前に我々馬術部の調教師だった阿部先生の言葉を借りれば、ベタル充分にふんだ自転車はハンドルを操作するのが少しの力ですむが、ベタルが充分に回転しない自転車はハンドル操作に力が入るのであつて、馬も同じである。

障碍

障碍に於いては馬体の伸縮が自在でなくてはならない。この為には馬の首をいかに保つかが問題である。首が高すぎてはつつかかる原因になるし、低くすぎるとは衡に推進力が出て来ない。又あまりに馬の首を自由にすることは馬に騎手の操作を伝えるのがおそくなると思われる。従つて馬の自然で最も飛越しやすい状態をさまたげることのない様に適度に衡受けが出来る程度に首を保つことが必要であり、例えばあまり首を使わぬ馬にむりに首を下げさせることはかえつて馬のじやまをすることになると思ふ。

次に細かな事だが、馬が障碍を逃拒したり、ひつかかつて走られたりした時は、すみやかに停止を試み、これにより馬をいませることが必要ではないかと思つ、

最後に初心者の練習であるが正しい乗馬姿勢を教えた

后に、鐙をはずして練習をさせることが一番長いのではないかと思ふ。それによつて、鐙にたよることなく、平衡をとることをおぼえ、騎座（キザ）の位置も、しつかりして来る。この際私の思ふには鐙をはずして乗つた時のかかとは、むりに下げ様とせず、少しは上つてもさしつかえないと思ふ。むりに下げようとすると脚に力が入りすぎて脚で馬をだく原因にもなると思ふ、かかとを上げるのは、ある程度姿勢が安定して来てからで良いと思ふ。

以上色々とかつてな事を言いましたが、未熟な私故おゆるしを願つておきます。

謹啓 秋冷の侯益々御清采の御事と存じます。扱て、今般は昭和三十六年度新役員を左記の如く決定致しました。旧役員在任中の御交誼御指導を謝し、今後共御支援御べんたつの程宣しく御願ひ申し上げます。敬具

記

部長	土田三千雄	協会幹事	一言	正広
監督	米谷 浩志	会 計	高倉 彰	
コーチ	平木 茂子	馬 匹	飯田 和之	
主将	堤 義則	緑 鞍 会	神藤 重光	
副主将	金子 璋男		高尾 友子	
マネージャー	岡 良介	女子責任者	菊地由美子	
		女子マネージャー	中島淑子	

昭和三十五年九月

青山学院大学馬術部

合宿の思い出

小野崎 威

日本のシンボル富士山の孫を連想させる雄大な大室山果てしなき緑の芝生のゴルフ場を前と後にし、右は霞に煙る天城山、左は観光地サボテンセンターに囲まれた静かなここ大室高原ライディングハウス―ここで一週間に渡って合宿することになった。早朝からのハード・トレ―ニシグはつらいが、その後が待望の食事と来るから実に楽しくなってくる。その上特製のタクシーがその都度送り迎えしてくれる。ここでは練習とか教訓とか、とにかく堅苦しいとは、一さい省かせてもらおう。昼休みになると、休憩組と草刈り組とに別れる、草刈り当番になつてゐる奴は大変だ、夏の盛りの暑さ盛り、こんなことをしてゐたのはいい加減やせる。するめになりそうだ、皆な顔がだんだんインドネシア人に似てきた、尤も最初からそれに近かつたのもいたが……。夕方になると緑の園で反省会を開く、あたりに夕闇迫り、大室山

も霧のヴェールをかぶり、わずかに麓だけがかすんでみえ、実に神秘的な姿となるから自然は不思議なものである。夏とはいえ高原の空気はさすがに冷んやりとして気持が良い、一日の疲れを忘れ、相撲をとつたり、勝手な話をしたり拳句の果は物好きな奴が頭を下にして立つてしまふ。それから風呂を湧かすのは我々の役目。この風呂は又変わつてゐる。ホースで水を引くのはよいが、蛇口とそれの接点の噴水を辛うじて雑巾で押え、鍛冶屋さんでよくみられるフィゴで木炭をおこす。この流し場が又ふるつてゐる。板切れ一枚しかない。我々男性はさて置いてきれいい好きで美しい女性がちよつとばかり気の毒に思われて仕方なかつた。さて一汗流してまずホツとして、これから真の自由時間となる訳だ、野郎ばかりのむさ苦しい部屋も一花咲こうというもの。大体男ばかりになると話も知れたものだ。盛んにのるけ話が飛び出

す。「うるさいな！黙って寝ろよ。」一応上級生は貫録を示す。「よせよこの野郎！」「どうした、やったか」何んのことか分らない。「もう電気を消すぞ。」大声で怒鳴った奴がいる。「もうちよつと待ってくれ。」かまわず黒の世界に変えてしまふ。一瞬静かになる。不思議不思議を唱えた奴がいた。笑いが沈黙を破った、そつと布団を抜け出して下の部屋に行つてみた。幹部連のいる所だ。流石に静かだ。体でかい一年坊主がもて余し気味のその体を小さく丸めて、そつと布団にもぐつていた、隣りの部屋をのぞいてみた。四人いる。灯こそ消されているが、煙の火が螢の様にチラチラゆれ、またまだ話に花が咲いていた。外が大分寒くなつて来た。では引き上げて寝ることにしよう。又朝早く起きるのが楽しみだ、何日目だったかはつきり憶えていないが、夕方ゴルフ場をつつきつて有志六、七人で一碧湖へ行こうと相談が決つた。三十分もかかれば何んとか行くだろう位にしか考えていなかったところが、行けども行けども前景が全く変らない、驚いた、すごく遠い、「道を間違えたかな」「引き返そつか」誰かが情なそつな声を出しながらもしぶしぶついて来る。あの森を越えて、その向うらしい。いや気がさしてきた。つくづく思つたね、「止め

ておけばよかつた」と。がここまで来た以上引き返す訳には行かない。一時間余りもたつてようやくたどりついた時にはもう暗くなつていた。期待に反したそのものが暗闇の中で月の光を反射して、わずかにその存在を表わしていた。この時はもう帰る気がしなくなつていた。このままだと飼付けの時間に合いそうもない。我々は勝手に人に任せてしまうことにした。丁度ここはゴルフセンターの入口になっていて、事務所のすぐ前からこのうらめしい水溜りを見下ろしている。帰りかけ様としたら、おもむろに係の人がとび出してきた。ゴルフ場にも入られては、と思つたららしい。「大宝高原へ行きたいんですが、どつちへ行つたら近道でしょうか。」尤もらしい顔をしてきた。「この道をまっすぐ行けば近道ですが、グリーンがあるから、それを踏まない様にしてまっすぐ行けば、ライディングハウスにぶつかるからすぐ分ります。」と真剣に、今下つてきたばかりの道を教えてくれた、「どつちもすみません」。笑いをこらえて上々にそう云つた。こいつは全く傑作だつた。

こんな笑い話でもないやり切れない、ようやく疲れにも慣れてきた感じだ、食事が済んで例のタクシーを拾う間、海が見える所に腰を下ろし、一服する、何とも云

えない気持だ。大島がかすんでボーツとみえる。いい景色だ。特に朝の空気はすがすがしくて美味しい。やがて車が来た。何んと十余人乗りの大型オープンカーだ。砂けむりをすかして、囲りの木々がバツクバツクしていく。これから又いつもの様な毎日が。一週間も短かった、辛いこと苦しいこと全てが楽しい思い出となる。植樹

福島遠征記

私達一年生は、何回となく福島遠征の萬を上級生から聞いていた。一年生も何人か出なければならぬ事、試合ではあるけれどとてもたのしいものであること等々：いつしか私達の心はまだ見ぬ福島に非常な期待を寄せていた。

去年は運動会の日に当たったので全員で出発したそうだが今年はいにくと出発の日が十月十五日の土曜で授業の出席日数の足りなくなりそうなものはおくれて行かなければならなかった。後段組七人（私もその一人）はた

もし、記念の写真も撮り終えて、重い荷物と共にバスに乗りこんだ、バイ・バイ。いかにも長い間居たかの様に、それらを窓ごしに懐しんだ、力強い大室山もだんだん小さくなり、他の山々の仲間入りをしてついには見えなくなった。又いつか来て下さい、とでもいいだけに。

一年 岸 祐子

つた一人の見送り人堤さんをあとにして上野発后後一時五十五分の急行で一路福島へと向った。あいにくと列車は満員だったが手製の弁当に舌つつみつ男子のさし入れ（おせんべいとりんごばかり）に感謝し、おしやべりをしてるうちに、いつしか福島に着いて居た。改札口を出たら外は暗かった。高尾、高井さんの方向をたよりにいざ行こうとして居た所へ二人の女の方が私達一行に近づき「青山の方ですか。私達福大からおむかえにきました。」と言われた時にほ、はんとつにほっとした。電

車からおりて真暗な道に立った時はほんとうにむかえに来て下さってありがたかったと思つた。清潔げで小じんまりした、あぶくま荘で先発隊八人が私達の着くのをまつていた。早速私達の為にさめかかった夕飯をいただき試合のくわしい事は翌朝はなすから今晚はぐっすり寝る様言われた。いつもはなかなか寝つかない私達もこの日は一風呂あびてから十時に床についた。翌十六日(日)は風の強いよい秋日和であつた。昨晚の夜行で先輩の上原さんとキャプテンの平中さんがきていらつした。上級生が試合だというのに落着いてるのを見てびつくりした。一団となつて競馬場内の馬場に行き現実の問題として真剣に視場した。東京から来たのほ青学だけで、なごやかな雰囲気の中で試合が始められた。試合の運営、箱番はすべて福大関係の男子であつた。午前中の団体戦では少しの差で一位を北大にゆづつた。最後の個人戦は二年生以上全員と一年三名が出場した。景戦には上原さんも出場され、一年ぶりで障碍を飛んだ。後はまるで青山の一人舞台のようであつた。馬は満点馬ぞろいで見ていてとても気持がよかつた。中には障碍を飛び終つたとたん鞍の前の馬の首の根本の辺に、ちよこんと乗つた

人などいてユーモアがあつた。青学の人の姿勢はきれいで完全に前形して居た。試合の後のレセプションの席で先生方もその前傾について話された。完全に前傾姿勢で調教された馬は前傾姿勢でもかまわないが、それほど調教されていない馬は前傾すると止まつてしまうものである。との話だつた。春風がそうであつた。個人戦の一位は菊地さんで二位、三位も青学であつた。その夜試合について皆で感想を述べあい今後の意欲を新たにした。七時頃宿をあとにしその夜の汽車で楽しかつた福島を後にした。皆、席がとれ、ただひたすら寝むる人、おしゃべりに花を咲かせる人などさまざまであつた。上野に着いた時は皆、ねたりそつで元気がなかつた。

最後に一言、随行して下さつた上原、平中、金子さんに心からお礼をもうしあげます。ついてきて下さつただけで私達は心強くなりました。



平木コーチの横顔

“おはよう！ こつちを見てくれそんな時にペコンと

おじぎをすると、元気な声が飛んでくる、あとは駄目、タイミングが大切なのである。小ちやくつて、きびきびつとしていて、信じられない位細さに汚れたジーパンが独特のキュロットをはいて、今、イの上に居たかと思うと今度ほケン、マタ今度はナギポーズに乗つかつてあつと思うとラチの上から、腰おろしちや、だーめだー”

“ほーら、口にあたつているよ！ つてな事を目をきらきらひからせながら叫んでる、頭を無雑作にリボンで押さえた可愛らしい御仁が我らの平木コーチなのである。

ある先輩が“あの人は凡人じゃない、貴方たちはわからないだろうけど、平木さんの腕は大したもので、私なんか逆立ちしても足もとにも及ばない位なのよ”つて云うのを聞いて、私達なら逆立ちして飛び上がつてもまだ無理なんじゃないか、などと情けなくなつたことがあるが、実際今年の団体では中間馬場で優勝なさるし、全く

誇るに足る人物なのであろう。ガリバーではないけれど、馬の国でも行つちやつたいんじゃないかしらと思いたくなる程、彼女ほ馬が好き、身の辺りも馬づくめである、何にでも馬をくつつけたがる、パツクにも風呂敷にも、ブラウスにもアクセサリーにも馬がちゃんという。夜、ねむっている間にも暴れだしたらどうするんだらうー

体。
彼女の意志の強さは天下一品、責任感も負けず劣らずである。何しろ一日も欠かさず一番にコーチをしに来て下さるなんぞ一寸した人でも真似の出来るものではない、本当にいくら感謝しても足りない程。我々にとつても馬共にとつても有難い先輩である。

学生時代、毎日鞍をかついで帰り、タルにしばらくつけて練習したとか、アバロンに毎週合同練習に行つて落つこつたとか、エピソードは数々聞くが、山へ登るにしても私達より一歩位でも早いし、ごはんを食べるにしても

数分でも早く終る、何をやっても皆より必ず優れているのが平木さん。日本中の馬に殆ど乗っているといわれる平木さんが少しでも永く部に留まって、私達にお手本を示して頂ける様、私達も頑張つて、馬に乗ろうではないですか？馬場も良くなったことだし。平木さん程の

一部馬術部の現状

夜間部の学生は、殆んど全部が昼間アルバイト又は定職を持つている者ばかりで、馬術部員と言えどもこの例に漏れません。従つて一般練習は、日曜日及び祭日だけです。

現在、部員数は約三十名で、その内訳は、四年生四名、三年生六名、二年生八名、一年生十一名です。この内訳から判断すれば、我部は、現状維持或いは年々発展していく傾向にあると思われます。又学校からおける予算も昨年度二七〇〇〇円そして今年度三一〇〇〇円と増加しました。

我部一年間の主な行事を順序立ててあげれば、春季遠

人物はいくら眼鏡をかけて探してもそうざらには見付かるものではないという世評なのだから、私達はチャンスを見逃さず彼女から得られる限りのものすべてを吸収して良い馬術部々員となりたいものである。

乗会、強化練習、三大学定期戦（青学短大、法政大学二部）、夏季強化合宿、秋季遠乗会、強化練習、三大学定期戦等があります。この中で最も重大なものは、年間二回の試合と夏季休暇中の合宿です。

今年の合宿は、種々の事情で馬事公苑に於いて実施しました。期間約十日間、参加人員約二十名でした。起床五時、自炊にて朝食を賄い、六時より騎乗した。合宿中は宿舎として青学の木下先生宅を拝借し、コーチとして、平木さんの指導を受けられたことは、部員一同心から感謝しています。なお合宿の最終日には、部員を三つのグループに分け障碍飛越の試合をし、組が優勝しました。

11日17日 天候くもり 馬場良 於横浜乗馬具楽部

青学二部			法政二郎		
選手名	馬名	減点	選手名	馬名	減点
雪野	藤花	0	新関	朝霧	0
溝田	春姫	-44.25	松木	伯陽	-175
海老原	ｽｰﾄ	-166	岩崎	藤花	0
山崎	朝霧	0	土岐	春姫	-35.25
熱田	伯陽	-129	高橋	ｽｰﾄ	-165
合計		-339.25	合計		-373.25

青学短大			青学二部		
選手名	馬名	減点	選手名	馬名	減点
渡辺	藤花	0	溝田	伯陽	-36
水島	春姫	-16.5	金沢	春姫	-10
西谷	ｽｰﾄ	-169	木下	ｽｰﾄ	-165
藤間	朝霧	-12	斉藤	朝霧	-22.75
原田	伯陽	-171	安井	藤花	0
合計		-369.5	合計		-233.75

（合宿中も、勤めのある者は通勤していました）
次に秋季三大学定期戦の経過をあげれば、左図の様な結果で、青学二部が優勝しました。この定期戦をもって今年度の公式戦はすべて終りました。（今年ほ完全優勝）

です。）

来年度も、今年に負けない成績を残したいと思っております。（現在部員を三つのグループに分け各グループに責任者を置いて練習をしています。）

最後に、去る十一月二十三日に行われた役員改選により、次の新役員が決定しました。

部長 溝田昌利、主務 山崎長和、副部长 木下秀雄、
会計 安井利男、呂係 海老原植雄の通りです。

今後とも宜しく御指導願います。

今月のスケジュール

一月二日（日） 初乗金、於馬車公苑

二月中 対成緩大学定期戦

二月下旬 オール農大対オール青山戦

三月上旬 対学習院戦 女子

開東馬術リーグ戦 女子

休暇中 男子合宿、於網島

四月～五月 関西遠征

新馬二頭上京の記

商科三年 高倉 彰

六月十五日夜、やっと都合した式拾万円をポケットにして上野を立った。

前の席には小宮、横には平木さんがいる。

まだ見ぬ新馬への期待に胸をふくらませ、あれこれと考えると、とても眠れなかった。平木さんは、疲れていらつしやるのが、グークーとよく寝ていた。仙台で起こしてあげなかったら、そのまま青森まで行ってしまつのではないかと思われる程である。眠ろうとすればする程眼のさえてくる僕には、うらやましくて仕方がなかった。

早朝の仙台は、さすがに肌寒い。六月だというのに。

駅からタクシーで沼田さんの経営するガソリンスタンドまで直行した。時々荷車をひいた青光に似た馬に出会った。そこで僕等を待っていたのが、農家の人の馬に対する愛情の強さである。とにかく家族間様に扱ふ。まさに溺愛という位である。

購入予定の二頭の中ベル系の馬を持つ家の娘さん達が泣いて反対するのである。無理して買つても、予定より高額になり、とても、購入困難になった。そこで、この馬をあきらめ、オート三輪に乗つて、他の馬を見に行つた。この時の寒かつたこと。朝の冷い空気をきつて、デコボコ道をガタガタとすつとばす車上でマリのようにはずみながら、小宮と二人寒い寒いの連発である。

ここで会つたのが青渚である。僕等が入つて行くと、大きな顔がチョココンとのぞいていた。

沼田さんが事情を話し、すぐに馬がひきだされた。一見それ程大きいとは思わなかつたが、試乗する時になつて、これは「でかいや」と思った。乗つた感じは、軽くて身体は柔らかく……で気にいった。すぐに値段の話に入つたが、朝食をすませていない僕等は、出されたお茶をガブガブ飲み、この地方の名物なのである雪お菓子

を、ポリポリたべた。こうしている間に、沼田さんが話を決めてくれ型通り、手打式があつて、ここに新しき愛馬を迎えることになった。名前は、アーリーモードと云い血統も良い。食欲旺盛なことは、彼の馬房の中に、飼桶が三つもつるされ、草が山盛りにつまっていたことから察せられた。

この後沼田さんの家にもどり、朝食を御馳走になり、寝ることにした。ここでも一人眠れず、沼田さんの家の坊やと三輪車で散歩に出た。この坊やなかなかの腕白坊主で、近所中の、顔らしい。

昼食中青剣号が着いた。これは、大きい」という言葉がピツタリきた。堂々としていて、王者の風格があり、日本人いや日本馬ばなれした顔をしていた。とにかく、これは凄いやという感じが強かった。横につながれている横浜や関学の馬が、ガタガタ騒いでいるのを、横眼に眠っているが如く第二の故郷を離れるのを知つて、考え深げに黙想しているが如く、じつとしていた。

三時長町駅で貨車につきこんだ。青剣を中に、向つて左に青渚・右に横浜で購入した星月という具合に。

この星月チビのくせに、暴れて暴れて、時々青剣にた

しなめられていたが、二時間程たつと、疲れたのかグツタリしてしまった。

この時青剣と前の御主人との涙の別れがあり、その方の写真を頂いた。四時長町発だというので、小宮と二人懸命に草をかつたが、実際に長町を出たのは、翌朝の九時であつた。貨車に乗つたのは勿論初めてだし、一夜中あつちへ行つては、ガチャガチャガツチャン、こつちへ行つては、ガチャガチャガツチャンと、貨車の接続が行なわれ、この夜もろくに眠れなかつた。三頭共飼もたべなければ水も飲まず、わずかに草をたべるだけ、疝痛を起こされては大変と、舌を引っぱりだしては、塩をすりこみ、無理に水を飲ませようと努めた。ここで困つたのは、水を汲みに行くと、どれに自分が乗っていたのか、分らなくなることである。同じような貨車の列が何本もあり、二十本余もある線路を渡つて、水を汲みに行くと、実際、自分のがどれだか、分らなくなる。まして、接続の為、その中の一本にでも移動されては全然分らなくなる。今まで短かつた列が帰りには凄く長くなつていたり、わからなくなつた時の情ないこと、重いバケツが、よけい重くなる。関学の長久さんに、翌朝会つたが、自

分の貨車が分らなくなつたので、一つ一つ見て歩いていくのだと、ポヤいていた。

駅員さんに草刈りを、手伝つて頂いたりして貨車の中に、草を山と積み込み、東京オリンピックピック大障碍候補馬と横腹に大書した貨車は長町を立つて東京へ向つた。

何となくホツとしたら急に空腹を感じた。昨日買いこんだ「おすし」は、もうないし、貨車がいつ出るかわからなかつたので、買ひ物にも行けず、乾パンが二袋あるだけ飲み物もなく、濃縮ジュースのピンを横眼に、情なかつた。沢山あるのに、水を飲まない三頭の馬と、飲みたくても、飲めない三人の間との奇妙な組合せの旅である。停車することに草刈りをする。貨物列車の停車する所は、売店等ないし、乾パンをポリポリたべるだけ、もつともそれに比例して、喉は、かわく一方。

福島駅で大望の食事ができた。おそばに、卵をのせたのをガツガツとたべ、やっと、人心地がついた。

沿線の広告は変化に富み、僕の眼を楽しませた。「酒は大黒」という広告が最も数が多かつたように記憶する、又見事にととのつて植えられた稲の苗が美しく印象に残つた。

馬の万は、三頭共元気だつたが、青剣が両隣りの馬をけるので、心配した。又前がけが浅く、ゆつくり身体をのばして、横になれなかつた。特に長身の小宮は、気の毒であつた。

平木さんは、相変らず、よく寝る。感心した。

その日は、大宮で夜をすごした。ここでもガチャガチャガツチャンの連続である。ちよつと寒かつたので、寝藁を馬から奪取して寝た。遠くにネオンが七色に美しく輝やき、東京の近いのを思わせる。馬もおとなしくなり眠つたようだ。

翌朝、快晴である。いよいよ東京へ、広々とした緑の田舎と違い、ビルが乱立し、騒音でやりきれない東京を、青渚が、興味深げに眺めている。鼻の穴をできるだけ大きく広げて。

巢鴨で原さんに連絡を取る。東京へ入つてからも停車の連続で、渋谷まで二時間余りかつた。

とうとう渋谷へ着いた。馬は元気である。勿論人間も皆んなの期待の眼の中を、三頭の馬は、自動車に乗り馬事公苑へ。ここで、平木さんと星月に別れ、二頭の新馬は、他の四頭の仲間入りしたのである。

四大学新人戦

第一戦、対東京農業大学

飯田は、ラッキーセカンド号に騎乗、やや不安定な感もしたが満点でゴール

小宮は桜勲号に騎乗、第一障碍を拒否されて、危うかったが、よく立ち直り、第一、第二と飛越、第三の前で右へ何度もまわられてタイムを相当要し、第五障碍前でタイム失権、顔面蒼白で、息を切らして帰ってきたが、もう少し考えて乗ったら、もっといい結果が出たのではないだろうか。

神藤は満点馬栗早号で、数回拒否された上、第九障碍で径路違反をし失権、拒否された時、こわれた障碍の上を通過し、もどらなかつたためである。知らなかつたという事は理由にならない。今少しの勉強と落ち着きが、要望される。

山田は桜月号で一つも飛越できず三拒否失権、難馬中の難馬ではあるが、注意され、教えられた通りできなかつ

たであろうが、また、もつと思いきって乗るべきである。固くなったのか乗り方が上品すぎた。

この試合50数点の差で緒戦に破れた。

第二戦、対東京農工大学

小宮の桜勲ほ二度目とあつて好騎乗し、第八障碍まで行き、相手を大きく食つた。然しまだ馬の反抗に対し力に対抗していた。

山田の勝姫は全然飛ばず問題外。もう少し思きって乗るべきである。相手も同様であつた。

伊藤の桜月号も一つも飛越せず、唯思いきって乗つていたのは新人らしくいいことである。相手選手も同じであつた。

法月号に騎乗した重富は、全然馬を出せず、第六障碍まで、二拒否失権、推進さえきけば楽にゴールできる馬なのに鞍土でガタガタし、問題にならなかつた。練習不足な事は、明白であり、第一元気がない。

この法月の食われが大きく、大差で連敗を喫した。

第三戦、対日本大学

マルタカ号に騎乗した伊藤には、大きな期待をかけたが一つも飛ばすことができず、二拒否失権、馬歴の長い彼もまだまだ甘いであろう。相手選手も同様の結果であった。

鈴木の勝姫も乗り方が上品すぎ、元気なく、一つも飛ばさず。とにかく、一つでも飛ばそうという所がうかがえなかったのは残念である。

小宮の栗早は意外に悪く、再三拒否されたあげく、第九障碍で二拒否失権、桜勲号での好騎乗と考え合せると、全く意外の不成績であった。前段に騎乗した相手選手の不成横を見て、力みすぎたのか、それとも三戦目で、バテしまったのであろうか。

よくやってくれました

対 慶 応 戦

記

高 井 由 紀 子

若さと美貌と闘志にあふれた我らの井田、菊地、高尾原田、水島さん等のレギラーの面々、試合前のひきしまつたこの一瞬、この一瞬に、我らの青春のすべてをかけたもいと思う（少しオーバーかな！）スリルとサスペ

山田は昭南号に騎乗、第一障碍飛地の際、鐙がぬげ、そのまま第二を通過したが、次の右回転で推進が足りず、第三を二度拒否され、さらに反抗をとられ、第四も二度拒否されて、ついに失権、小宮同様意外な不調ぶりであったし、大きく期待を、裏切った。

こうして、この試合も二点差で負け、三戦全敗というみじめな結果に終わったのである。実力を比較して、なる程他校より劣っていたかも知れないが、それよりもまずファイトというものが、全然感じられなかったのは、残念であった。今後奮起して、練習に励むことを要望する。とにかく、この敗戦を薬として、大いに頑張り、いつの日か、仇を討とうではないか。ごく近い将来に。

ンス（プラスロマンスがあつたらなおいいのに）を求めて今までできたえてきた技を、自信の程をみせてもらおう。十二月十四日の午後、日吉の慶応の馬場で第四回定期戦が行われた。昨年の優勝に続いて二連勝をねらう青山

チーム「まかしといて」といったげな井田さんの試合なれした度胸のよさそうな顔、小柄ながらキャプテンとしての貫録が身についた菊地さん、すでに黒い乗馬服と真白のキュロットに身をつつみ手袋をはめたりぬいだりして落着かない高尾、原田、水島さんの二年生チーム。

昨日の雨でドロドロの馬場「絶対に落ちてはなりませんよ」まずほ、素直な乗り方と定評のある水島さん、試合度胸があるのはすでに御存じの如く、ケイシユウを見事にのりこなして満点でゴール、「チコ、よくぞつてくれたわね。」このところ、めつきり馬についている原田さん・ラントウに騎乗し、障碍の端の方を体を斜めにして飛ぶというくせのある馬を、持ち前のやわらかさとカンのよさで乗り切り、好敵手とはこの事かと思われる程試合となるといつも顔を合わせる慶応の今井さんと井田さん、これで最後の試合となるが、本当によくやつてくれました。

この定期戦、昨年は青波で井田さんが今井さんをくつて青山を優勝へと導きましたが、今回はどうなりますかおなじみの月雪の登場、井田さんは物馴れた様子で次々と飛んできますが、安心したのか一落「由断は禁物ですよ」、一年生の「シツカリ、井田さん」に答えて「八

イ」と返事するあの真剣さ！四年間馬に乗ってきたという自信は並たいていのものではないだろう。この定期戦を飾った二人であった。

大きな馬にチヨコンと乗った高尾さん、その馬の名はケイカ「友チャン、ガンバツテ」のかけ声とともに、ものすごい勢いでとび出し失権だった慶応の中塚さんを完全にノック・アウトして満点でゴール、ゴールしたとたんに「ニツコリ」。今日の落着いた、騎乗ぶりはレギラーとして貫録充分、来年もお願ひしますよ。この辺りで青山の優勝確実というニュースが入ってくる。チリリユウに騎乗の菊地キャプテン、期待にこたえて、ベンをうまく使い器様たところを見せる、完全にくつて、青山の優勝をゆるぎないものにする。

試合後、余りの大差に、選手らしばし手をとりあい「よくやったわね」のいいあい、この一瞬、すべてがむくわれたという思い、つらい練習も早起きも……選手らは自個への自信を高めたであろうし、下級生は新たなファイトをもちたであろう。「本年も又青山のものよ」と。試合後の交流もはなやかなうちに進み、来年を約束して別れを告げる、又合いましよ。



我れらは馬である

青 剣 号

（8才・中半血・鹿毛・体高162cm・

胸囲190cm・菅囲21）

「云われて名乗るもおこがましいが、知らざあ云つて聞かせやしよう」

海も静かにさざ波の、美景松島近くにのぞむ、石巻の海辺の砂の競馬場、揃いも揃った若駒の、総勢二十数頭の中でグンとイイ男。何の因果か知らねども、似た顔付の人様に、見染められて連れられて、来たが花の都の東京とやら、空気もきたなければ線も無い、まあ何てところと思つたが、喧騒のみのこの都とも、幸いにして離れられ、たどりついたが田舎の網島。色々文句も云われるが、俺にとつては住み易い。

泥海の中の激しい練習は、少しも苦にはならねども潮風で鍛えたこの身体、粹で御酒でタフボーイ。女の子がすぐ色目、レイ子チャンもイカしてしまい逃げるのに大弱り、剣の如く鋭くて、世界で一番良い男??

青山学院の青剣たあ俺のことであ！

（高姿勢）以後お見知りおきの程よろしく御願ひ申しあげます。（ここで低姿勢）

という様な具合でございます。地方（仙台石巻）で速歩競馬に使っていましたが、年のわりに元気で馬絡も優れていて、口もそれ程こわれていませんので購入しました。初めの頃は瓜が薄くや石を踏むと跛行したり、又不注意で、怪我をさせたりしておりましたが現在では調教も順調に進んでおります。

非常に性格の素直な馬で、又口が非常に鋭敏ですので、何か一寸でも口を邪魔すると、すぐ反抗しますが、これは悪意の反抗ではありません。

調教は、障碍だけを数多く飛ばして、体勢を固めていきます。物を良く見て新しい物、色等で驚きますがこれらの馴致次第ですぐ慣れる事と思えます。能力ほ馬格からいっても中障碍Aは楽でしょう。

馬場の調教は、現在、肩内・横歩程度ですが徐々に高度の技術を覚えさせます。どちらかというところ障碍馬としての能力が大きいので、障碍に期待しています。

青麗号（7才・中半皿・朽栗毛・体高152cm 胸囲172cm・管囲18cm）

先号で、私の気持は述べましたので、今度は親分に書いてもらいました。

購入してからおよそ一年半になるが、その調教過程は決して満足なものではない。まだ色々の欠点を残して居るので、これを漸次なおしてその能力をいっばいに使える様にするには時間が必要である。ただ購入時に思ったほど馬自体の能力はめぐまれていない。しかも心臓が弱いと思われる点などは真に残念である。しかし、これは不断の練習で馬自体をきたえて行く事が可能であると信ずるので心配には及ばない。今の青麗に必要なのは訓練であつて疲れさせすぎは、この馬をつぶすことになるのではないか、幸にして馬匹も五頭にふえて、一頭の負担が少なくなったのであるから、この青麗に期待を持っていただいても良いと思う。馬場はもういくらこわされて

も一つのものを持つているので心強い。障碍に向えば飛ばし、又飛越たいせいも非常にいいのできつと中障碍なら、きらわずに飛ぶ様になると私は信ずる。

性質はおとなしいので、人間にキガイを加える様な事は無いが、おとなしいからといって、あまりかまいすぎると、ひん馬でもある故、性質が悪くならないともかぎらないので注意していただきたい。（岩崎修）

月雪号（12才・中半皿・尾花栗毛・体高161cm 胸囲185cm・管囲23cm）

「私じゃ買われて来たわいな。」という訳で、皆さんが関西遠征にいらつしゃつた時以来貨車にゆられてこの東京の地へ、最初ほ大きな奴だともてはやされましたが剣若や渚君が来て以来目立たないようです。来た当時は元気でしたが、他の馬君達が新馬なのと、なんでも練習用に僕を買ったんだとかで、僕ばかり使われたので（ひがみかな？）九月すぎる頃にはいくらタフネスを誇った僕といえどもすっかりパテてしまいました。その後貸与馬の試合の時、よその学校の人を乗せたら、後退の時こるんでしまい、飛節とかをチト悪くしました。しかし最

青光号（8才・中半皿・鹿毛・体高160cm・

胸囲186cm・菅囲22cm）

性は「青光」名はドタ。ドタと聞いたなら何処の馬の骨かわからない奴だなどとおっしゃいますな。これでもれつきとした素性もあり能力だつてあるんだよ、おわかりかな、嘘だと思ふなら産駒証明書をお見せしようかね。

会長さんじきじきの御寄贈を仰いでいるのですぞ、ドタなどと失礼な、アバロン大会をござんになりましたかな、あのファイト突進力あれだけで青学畜ということがわかつたでしょう。後一年もしてござんなさい、大障碍はやれますね。なにしろ一年前は畑ちがいの田んぼを耕したり荷馬車を引いていたのですからね。それにしても大きな変化でしたね。なにしろ岩手の山の中から東京のドまんなかへ来たのですからね、汽車を降りたときはオツタマげましたよ、青山とか云うところに行つたら葉介君や波子さん、影兵衛さんが居て皆小綺麗でしょう。しなびた着物を着てのそつと行つたら皆たまげたらしいです。でも田舎で育つただけあつて体格だけは自信ありましたよ、そしてその時決心したのですよ、「今に見ていろ僕だつて」とね、そして、一生懸命精進したんですよ、平木コーチにしぼられる時など本当につらかつたで

近皆さんからも太つてきた、元氣になつたと云われ、自分でもその氣になつています。僕は馬場は出来ませんが障碍ならチト自信がありますよ、一米三程ならいつでも飛びますよ、エヘン！

それから、皆さんを時々かんだりしますが、はんまにかんにんどつせ、別に敵意とか恨みをもつたりしてやつたわけではないのです、何だか自分にもわからない恐怖感が迫つてきて、つい口が出てしまふのです。多分子僕の頃ひどくなくられたことがありますので、そんな恐怖感が潜在しているのではないかと思ひます。又、避はやつたら身体に悪いことは十分承知しているのですが、畜生のあさましさでも申しましようか、ついついやつてしまふのです。僕から皆さんに頼むのも変んですが、これだけは絶対させないようにして下さい。最近ドタさんも僕のマネなどして……まだ若いのだからあの馬（ヒト）にも注意してあげて下さいね。お願いします。

最後に皆さんにお願いがあるのですが、実は僕はどうもお嬢さん方に人氣がなくて淋しいんですが、もてる方法みたいなものを内諾で僕にだけ教えていただけないでしょうか、なにお前はダメだつて？　そ、そんなこと云わないでお願いしますよ。

すね、朝の六時前からでしょう。でもいいんですよ、だって希望と未来がありますからね、これからも一生懸命やりますから、部員の皆さんもガンバッテ下さいよ。

青 渚 号

8才・中半皿・栗毛・体高160cm・
胸囲188cm・管囲19cm

青山学院大学の馬として、初めての冬を、のんびりと綱島で過している。故郷北海道や約四年間暮した仙台ほど寒くないので、非常に助かる。でも先日チヨツピリ雪が降った時は懐しく、「寒いのはイヤだけど、雪っていいな」と思った。六月中旬貨車に乗せられて、仙台をたつてから、すでに半年、生意気かも知れませんが、馬術部というものが、少し分つたつもりです。

今までは馴れなかつたとはいえ、変に反抗したりして、僕は馬鹿だつたと思います。でも、ちよつと弁解させて下さい。僕は若いんです。たまには横道にそれたり、暴走したりもします。昔のような、自由な生活が許されず、毎日の規則正しい生活、とても気疲れします。

年頭に当り、こんな事を誓いました。僕も七才になつたもう大人なんだ。皆んなに敗けないようしっかり勉強し

て、立派な馬になり、可愛がつて下さる部の皆さんに、御恩返しをしたい。

こんな事を考えたがら、元旦から練習したら、疲れて疲れて、それで、暇さえあれば寝てたんです。決して怠けてとか何とかつてそんなんじゃないんです。それなのに、ナマケ太郎だなんて凄く残念であり、悲しい事です。睡眠ほ美と健康のもと なんて、有名な某俳優が、自

分の健康法を、記者に、たずねられた時、答えてましたね。僕のもそれなんです、この点分つて下さい。ナマケ太郎っていう名が出ましたが、太郎っていう名好きです。青渚もいいです。そこで僕は、姓は青渚、名ほ太郎、姓名を持った馬なんて、名誉な事だと嬉しく思つてます。

だけど喧嘩太郎は、頂けませんね、喧嘩だなんて、とんでもない。ふざけてるだけです、それに、さつきも云つた通り、若いんだし、ああいうことも、たまにほ、いいじゃないですか、大体、学院各先輩馬の方々は、変に年よりくさく、若さがたりないですよ。たわむれて、ケガすることもありますよ。でもそれは、あなた方だつて、経験があるでしょう。とにかく、僕ほ、若さと美貌を誇りたい。特にいつまでも、若さは失いたくない。僕等馬族ほ、口がきけない。だから、こういう機会に、達

筆を揮いたのですが、そうすると、ページ数が増し、余計にお金がかかり、僕の事を可愛がってくれるあの鼻にホク口のある人が、また青い顔して、計算ばかりして僕の面倒見てくれなくなるから、この辺でやめます。その方が利巧ですよ。

最後になりましたが、これから一生懸命練習しますから、よろしく御指導のほど、お願い致します。とにかく頑張ります。

続 青波とともに

天狗会の後、関学との試合が日大馬場であり、彼女に騎乗して満点で帰った。

その後六月に四大学定期戦があつた。この時も彼女に騎乗したが、最終障碍を前に、タイム失権を食ひ、遠藤主将にコツテリ怒られた。

夏休みのある日、彼女に右の肩をガツブリやられ、次の日は、右横腹をかまれ、さらに次の日には、右足大腿部を蹴られ、彼女との交際中最悪の三日間であつたが、なお彼女を愛し続けた。

“お知らせ”

パレス乗馬クラブ・城戸先生の御取計りで合同練習を毎週一回することになる。男女別に五名づつ、費用は四百円。

警視庁騎馬隊の馬に、池田隊長の御好意により、騎乗を許可さる。

商科三年 高倉 彰

何か面白くない事があると、彼女にそれを話した。

明けて三十五年一月一日、飯田君と二人で、初乗りした。勿論、彼女に乗った。然し調子悪く、散々ゴネられた。その月の十四、十五日と行なわれた新人戦の能力検定には、二度目満点で、ゴールしてパスした。

その後の成績では、対名古屋大学戦に満点でゴールした。然しその後の成蹊戦が駄目だった。わずかに、第二障碍を飛越しただけというみじめな成績であつた。多分親不孝な僕を彼女はいさめる為に飛ばなかつたのである。

う。

五月の都民大会を前に、彼女が左後肢を痛めた時は、残念でならなかった。この時は最初二日間三十分おきに湿布をしたが、二晩目も、白々と明けてきた頃眠つてしまい、デイトの時間に遅れたが、この時だけは彼女がうらめしかった。この時の夜の彼女は魅力にあふれ、可愛いくて仕方がなかった。痛い方の足を上にし、僕が入つて行つても横になつたまま、云うなりになつていた。

六月の関東九大学の際の能力検定に落ちた時は、彼女にすまないことをしたと思つた。全くの僕の不注意から、不合格という恥しい烙印を押されてしまつたからである。この日から丁度一週間後、彼女に永遠に別れを告げねばならなかつたのである。六月十五日夕、雨に濡れて、一言君が、彼女を学院へつれてきた。淋しかった。皆が手入れを手伝おうとするのを断わり、念入りに手入れをした。一度家に帰り、七時頃もう一度馬房を訪れ、一時間程彼女と話をして別れた。そして、仙台へ向つたわけであるが、これだけは、今思うと、彼女を裏切つたようである。済まないと思つている。

僕が入部して以来二年三カ月ずっと一緒にすごしてきた彼女は今は亡く、小さな額の中にじつとしている。彼

女に対する愛情は並の人間に対する愛情以上のものがあった。難馬中の難馬と云われ、飛ばない飛ばないと云われた彼女の仇は、青渚で討つてやる。これが、彼女に、いろいろと教えて貰つた礼として、彼女の霊前に僕が捧げることのできる唯一のものであろう。

現在馬匹	年令	毛	性	入厩年月日	備考		
青麗号	7才	栗	毛	ヒン	昭34・4	八王子	
月雪号	12才	尾花栗毛	毛	セン	昭36・5	関学	
青光号	8才	鹿	毛	セン	昭35・5	青木倉	水沢
青剣号	8才	鹿	毛	セン	昭35・6		石巻
青渚号	8才	栗	毛	セン	昭36・6		仙台
出厩馬匹	年令	毛	性	出厩年月日	備考		
青影号	9才	鹿	毛	セン	昭35・6	大島氏売渡	
青波号	13才	栗	毛	セン	昭35・6	大島氏売渡	
青葉号	7才	栗	毛	セン	昭36・11	横浜乗馬ク	

部生活に関する十二章

第一章 まず第一番に特筆大書すべきはオコツカイを減らされたこと。つまりコーヒー四杯分に該当する部費の値上げ。毎月一日には、さなまだに軽い財布に風邪を引かせまいと、みんな一生懸命。

ゼツタイニ、タイノウシナイデクダサイ（会計）

第二章 四年生全員就職決定。最後までハラハラさせた。○さんも無事ゴールイン。皆さん日頃の図々しさを遺憾なく發揮なさいました。

ハツゲツキユウヲ、タノシミニシテマス（下級生一同）

第三章 部屋に電水完勝。開拓地の丸木小屋然とした綱島部屋にも文明開化の波が押しよせ、宿直の紳士は、これで夜勉強ができると一安心。

ヨル、ベンキョウハシテオリマセノ（男子一同）

第四章 青光の伝ピン騒ぎ。

全日本予選の日、高熱を発した青光。医者よ薬よと大騒動、しかし燕麦の食い過ぎと疲労の為とワカッてケリ。ツキノヒカリニサソワレタ、ミンナワタシガワルイノ

デス（ドタ光）

第五章 剣坊のいたずら。

馬事公苑で、索き馬順致中の神藤君、物を見た剣坊にひっかけられてひきずられ、将頭をぶつつけられてようやくストップ。

マサニマンガテキ、ナドトワラウコトナカレ

第六章 怪人続出

英一祐子さんが右親指を渚にかまれ、又経一伊藤正昭君、青葉に脚をけるれ、それぞれ二カ月程の重症を負う。

ドウゾミナサン、オキオツケニナツテ！・（馬匹一同）

第七章 平木コーチ優勝

国体中間馬場馬術で平木さんムテキにて優勝、自分で作った馬で優勝することは、お見事。

トウトウ、ヤリマシタネ シゲサン（旧友後輩一同）

第八章 信じ難い茶番を一つ

先頃の関東大学トーナメント後、青麗を綱島へ、アバロンあたりまで輸送した時、放馬、金子君がオートバイ

で追いかけたにもかかわらず、レイ子ちゃん懸命に走つてとうとう馬事公苑まで逃げ戻る。

一寸、用足シテタスキナデス、ハーイ（輸送者）

第九章 馬場ならし

一週間以上も続いた馬場整備作業、藤根先輩以下、よく働き、自分達の手で馬場を作り上げる。皆の手付き、腰付きの、堂に入った様子はどうだろう。

オレタチハ、ミチヲアヤマテリ（にわかニコヨン一同）

第十章 銀座”自動車”の納会

大成功に終わった祝賀パーティで、上手な踊りを見せて下さる青木、内田等大先輩に混つて堤主将踊りまわり、小宮氏歌いまくる。

先輩二八寺本圭一ツテノガイマスカネ（有能なるタレント）

第十一章 部内対抗催さる。

接戦の末、Bチーム優勝（井田、岡、小宮、原田、小野崎、高橋八、岡田）技能賞山田、敢闘賞斉藤。

オメデトウ、トウゼンデスヨ…（コンチクショウ）ホ

ントニ（敗チーム一同）

第十二章 馬匹当番決定

青光 ○岡、菊地、克、小野崎、藤間、児玉、吉松

育剣 ○堤、鈴木、高尾、佐藤、渡辺、渋谷、岡田

青渚 ○高倉、山田、高井、斉藤、木俣、岸

青麗 金子、神藤、中島、伊藤正、伊藤滋、穂刈、

高橋貴

月雪 飯田、一言、小宮、昭、伊沢、大沢、高橋八

ミンナオタガイニ、ガンバロウゼ（部員一同）

”お知らせ

馬事公苑の名馬術家瀬理町先生、馬事公苑に青字馬術部居た特は、散々うるさいよ！とも云ったが、悪く思わないで欲しい。綱島に移った貴部の発展を心から祈っている。何時か、話をしに行きたい。と云つてらっしゃいました。

十月二十三日、OB遠乗り、御殿場にて催る。

昭三十一年卒 沈 浜氏

立正公正病院に入院、九月二十三日退院

馬装の御用はどうぞ！

伊沢洋服店 千葉県習志野市大久保町一の三七九

布施靴店 品川区大井 tel七七一・六一一八

或るひと時

「勇さん…これから意子の云うこと終り迄黙って開いて下さらない…途中で言葉がとぎれると自分に云い聞かせたことが壊れそうで恐いんです…恵子ほ貴方が好きなんです…でも恵子にはこの子がいるんです…。勇さんに云われて初めて恵子は気がついたんです…法子ももう三ツになるんだな…って。法子が物心ついたら可哀そうだよ。って、勇さんに云われたでしょ…二晩中寝ずに考えたわ。

私今迄この子の為に働いてきました…これからもこの子が幸せになるんでしたら、私はどうなってもいい…あれやこれや一晩中考えぬきました…でも恵子はやはり勇さんの所に行けません。

勇さん余りにも幸せすぎました……。

恵子にはこの子がいるんですもの…恵子だけでしたら今すぐでも行きたい…お父さんもお母さんも法子と恵子と…この何にもおっしゃらずに受入れて下さるって聞いて

涙の出る程嬉しかった…。

でも尚更恵子には行かれないの…こんな商売だったでしょ。会社の人、親戚の人達のこと、色々考えたわ…勇さんもおっしゃった通り、恵子は何と云われてもいい…でも法子将来を考えると可哀そうなんです。困りの人達が幸せ過ぎるのよ……。

勇さんがこの子を可愛がつて下さる程恵子はつらいの…もし貴方との間にこの子の妹たり弟なりが生まれたら勇さんも法子に気懸して強く出られないでしょう…“ううん、そんな事”っておっしゃるけど、貴方はそう云う方なのよ…恵子もこの子に対しても貴方の子にも気懸してしまふと思うの…お父さんもお母さんも…そんな貴方の姿を考えただけでも気懸してしまふわ……。

…初めあの人この子を渡せば…って云うのよ…でもどうしても帰つて来ないと認めたらしく籍を渡してくれるそうです…前にもお話した通り恵子には母が居りません。母の居ない淋しさを身にしてみ感じてきたの…だからこの子にだけはそんな氣持を味あわせたくなくて今迄来たのよ……。

恵子は今つと不幸な人の所に参ります…子供の一人位いる人…それだったらこの子も気懸せずに育てて行けると

思うの……今更こんな事　つて怒られるかも知れない……
でも……考えて考えぬいたのよ……今の恵子には思い出だけ
あればそれでいいの……こんな打算的な考えですまないと思
うけど今はこんな気持なんです……何もおつしやらない
でそつとして置いて下さい。今何か云われると……やつと
云いきかせた自分がどうなつてしまつか恐いんです……」

「違つてるんだ！俺ほそんな立派な人間じゃない……俺に
は小学校に上る位の子供がいたかも知れないんだよ……そ
んな男なんだ俺は！でも今更この人の夢を壊す必要

がどこにあるんだろうか……この儘そつとして置いた方が
いいんじゃないか……第一お前にやこの人と一諸に暮らす
だけでギリギリの生活じゃないか……それでこの子を幸せ
に出来る気なのか……人並にやつてやれるか……この子が
可哀そうだ……でも俺はこの子がほしいんだ……この子もも
う俺の子と同じなんだ……でもお前が今そう思つていても
十年先、二十年先のこと考えてみたことあるのかい……。
……勿論！この子を愛し切れるよ……とうだかな……××でも
……愛してるんだよ。出来るだけのことをしてみたいんだ
……でもお前がこの人の立場だつたらやつぱり同じことを

考えてるだろう……××……そしてやつぱり離れて行くよ……
××……この子を幸せにするのはお前じゃ無理だよ……この
人は何時かは幸せになれる人だよ。今二人がこんな苦し
んでいても五年も経てば心の片隅にしか残らないだろう。
十年も経てば顔を思い出すのも大変になる……××……でも
愛してるんだ愛してるんだ……お前は今迄自分の心を偽ら
ずに愛して来たんだろう……××……うん……ならお前は傷つ
かずにすむ。お前にも思い出があるじゃないか……××……
勇！この人の目をよく頭の中に焼きつけとけよ……大切に
な……」

七五三の晴着を着せている勇の手がふつと止つた。無心
に見上げる法子のすみきつた目をみている内に勇の胸の
中から熱い固りがつき上げて来た……法子の顔がかすむ……
思い切り煩ずりしながら勇は法子の可愛い耳元にはき出
す様につぶやいた……。

「パパ……つて一言でもいいから云つておくれ」

「後記」

小生は昔からアマノジャクの気がある。自分でも悪い

性格だし損だと思つので改め様と努力して来たが一つも直らない、又出て来たらしい。皆が真面目な話を書いていると思つとムラムラつとくる。これがいけないんだな

“又選りに選つてこんな・・・と諸先輩及び後輩の御兄姉からお叱りを受けるかもしれない。でもこの広い世の中に一人位毛色が変わつていてもいいんじゃないかと思つ

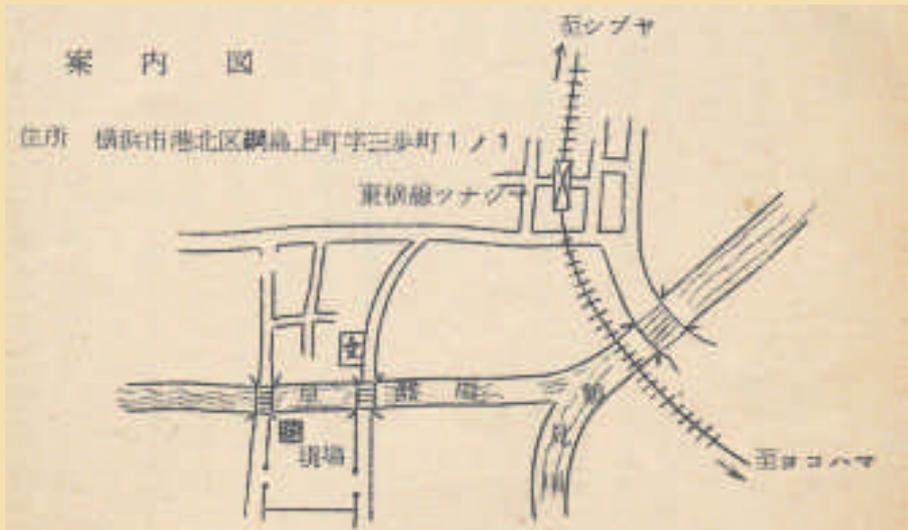
(影の声……変りすぎてら！)

昭和三十五年十二月某日

網島案内

昭和三十五年八月二十四日、網島へ、遠藤さんの頃より問題だつた馬場移転さる。

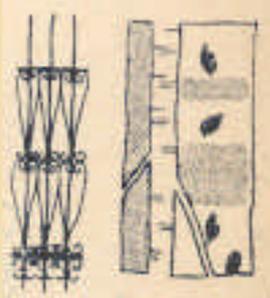
東京を離れ、神奈川県下のここ網島は御存知のように温泉で名高く、聞くだけに、環境の悪そうな所であるが、実に相違して、空の広い、さびれた感じの、のどかな田舎であり、我々、青学馬術部が、持馬六頭と共に引越してきた時の騒ぎも、さもあろう、と領ずける程単調な町である。



立ち上る臭いも、ぼろに湧くというハエも、人身をおびやかす外乗も、馬術部のもたらした悪だと地元民は陳情するが、近くのおでん屋、食堂、そば屋のにぎわいや、人参屋の繁昌も又ひねもす見物に来る老人、子供の目を楽しませているのも我々と馬共なのである。

とまれ綱島は、遊べない。不便である事を除いて、非常に良い所である。昨年暮から藤根先輩、堤主将以下、汗水流して、馬場の整地をした甲斐があつて、馬場もきれいに落ちつき、今年こそはと期待される。

先輩諸姉も、どうぞ、橋を渡つて別天地へ、一度お出かけ下さい。歓迎致します。



渡辺 充
恵子 } 結婚

祝賀会 9月22日 (木)
ハッピーにて現役、OB40人出席して盛大に開かれた。
結婚式 9月19日

植松英二
偕子 } 結婚

3月31日 (木)
呉竹教会 OB、現役150人位

(見須田米子)
赤嶋田米子
英 夫

11月26日 (土)
東京都品川区平塚1ノ56 TEL(781)3457

(尾田曙子)
永井曙子 > 結婚

千代田区神田旭町9

編集後記



一時は、資金不足で、その発行すらも危ぶまれていた。いななき 第三号を皆様の協力により出すことが出来、大変うれしく思っています。
緑鞆会係兼編集委員というのは、私達にとつて、少し重荷だったようで、いろいろと不満足な点が気に掛りますが、どうぞ、お許しの程を……。

「いをなき」 三号 (非売品)

昭和三十六年一月二十日発行

発行所 東京都渋谷区緑岡二二二

青山学院大学馬術部

代表者 堤 義 則

編集責任者 高尾 友子

印刷所 千代田区神田三崎町一ノ一

昭和膳写堂

TEL 〇八一九〇・二五三八